

# 中学校家庭科教育における 教育実習効果に関する一考察

大橋 登史子  
Toshiko Ohashi

## はじめに

本学の教育実習は、2年の前期に6月か、9月のいずれかの2週間にわたって行われることになっている。したがって学生が教育実習するに先だて、その目的、教育内容、家庭科教師のあり方、指導計画、指導方法、指導案作成および模擬授業、評価法など教育実習に関する一通りの学習をしている。

中学校での教育実習の場合、実習生は過去に中学生としての学習経験は持っているが、教師として学習者とのかかわりという中で、生徒の生活環境や、家庭科に対する認識など、その実態を十分に知っているとは言えない現状にある。

そこで今回は、中学生の家庭科学習に対する興味・関心の実態を明らかにし、教育実習の効果的あり方について検討しようと思う。

## 方法

- 1 調査対象 中国短期大学の学生が教育実習を行う倉敷市内の中学校4校と、短期大学の近くの中学校1校と、さらに岡山市南部の中学校1校の計6校の生徒623名を対象とした。(表A)

なほ対象者の家庭状況については、生徒の生活に関係あるものを示した。(表B)

- 2 調査年月日 1985年6月～7月

- 3 調査内容 1 中学校の家庭科学習に対する生徒の認識及び関心

- 2 実習における学習効果。

- 3 家庭科学習と生徒の望む教師像。

- 4 今後の家庭科学習に対する希望。

- 5 男女共修における学習効果。

表A 調査対象

対象校		生徒			合計
		男 (3年)	女 (3年)	女 (2年)	
倉敷A	男	39			39
	女		40		40
倉敷B	男	60			60
	女		65		65
倉敷C			102		102
倉敷D			119		119
岡山A			117		117
岡山B				81	81
合計		99	443	81	623

表B 両親の職業

	公務員	民間会社勤	パート	自営業	その他	父無	母無	内職	主婦業	答なし
父	16.0	46.0	/	16.1	13.8	4.3	/	/	/	3.8
母	8.0	19.0	3.0	15.1	14.6	/	1.2	12.2	15.5	11.4

## 研究結果および考察

### 1 中学生の家庭科学習に対する生徒の認識・関心

表 I - 1 家庭科学習に対する興味・関心

％

#### 1) 家庭科学習に対する興味・関心

表 I - 1 に示すように、家庭科学習が、大好きか、大嫌いか、についてみると、「大好き」が全体 (623名) 平均で25.8%である。

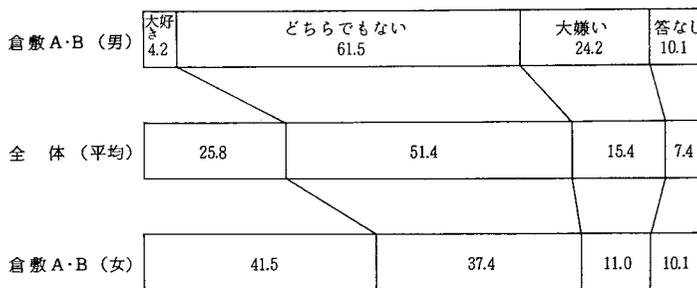
図 I - 1 に示すように倉敷 A, B 校の女子 (104名) の平均は41.5%で、全体平均より多いが、これに対して男子 (99名) の平均は4.2%で少なくなっている。「どちらでもない」では全体平均 (623名) では51.4%、倉敷 A, B 校の男子

では、すぎでもきらいでもないとするものが61.5%で半数以上いることがわかる。倉敷 A, B 校の女子では、「どちらでもない」とするものが37.4%になっている。

大嫌いな生徒は、全体平均 (623名) 15.4%であるが、倉敷 A, B 校男子では24.2%で、倉敷 A, B 校女子11.0%に比較すると2倍以上が「大嫌い」ということになっており、多くの男子生徒には家庭科の学習は好まれていない現状にある

		大好き	どちらでもない	大嫌い	N	A	人数
倉敷 A	男	5.1	51.3	33.3	10.3		39
	女	42.5	32.5	12.5	12.5		40
倉敷 B	男	3.3	71.7	15.0	10.0		60
	女	40.6	42.2	9.4	7.8		64
倉敷 C		32.4	46.1	15.7	5.9		102
倉敷 D		26.9	54.6	13.4	5.0		119
岡山 A		19.7	62.4	13.7	4.3		117
岡山 B		36.8	50.6	9.9	3.7		81
全体平均		25.8	51.4	15.4	7.4		623

％



男子・女子\*\*\*

図 I - 1 家庭科学習に対する興味・関心

#### 2) 家庭科学習に対する興味・関心の有無とその理由

家庭科の大好きな理由を、全体平均と倉敷 A, B 校の男子、女子とを比較すると、「調理・おいしいものが食べられる」が全体平均12.1%、倉敷女子は17.6%、倉敷男子は3.8%で少なくなっている。次に家庭科の好きな理由では「裁縫・手芸が大好き」とするものは、全体平均で6.9%、倉敷の女子の場合さえ8.8%であまり好まれていない。「先生が好き」だから家庭科が大好きというものが僅かであるのは意外である。(図 I - 2)

次に「大嫌い」についてみると、「家庭科全体が大嫌い」とするものは、倉敷男子が19.5%で最も多い。

次に嫌われるものでは「縫製」で、男女ともに約5.0%のものが縫うことを好ましく思っていない。(図 I - 2)

3) 生徒の家庭での手伝いの状況について

表1-2によると、「洗たく・アイロンかけ」をよくする、ときどきするを合せると、82.5%、「食事のしたく」をよくする、ときどきするを合せると77.2%、買物についても、「よくする」、「ときどきする」を合せると78.5%、「掃除・整頓」では69.3%で一応家庭で手伝っている。また、「老人・幼児の世帯」86.7%、「家族の相談相手」は85.3%で、対象の中学生では、家族の面倒をみていけるものがあることがわかる。

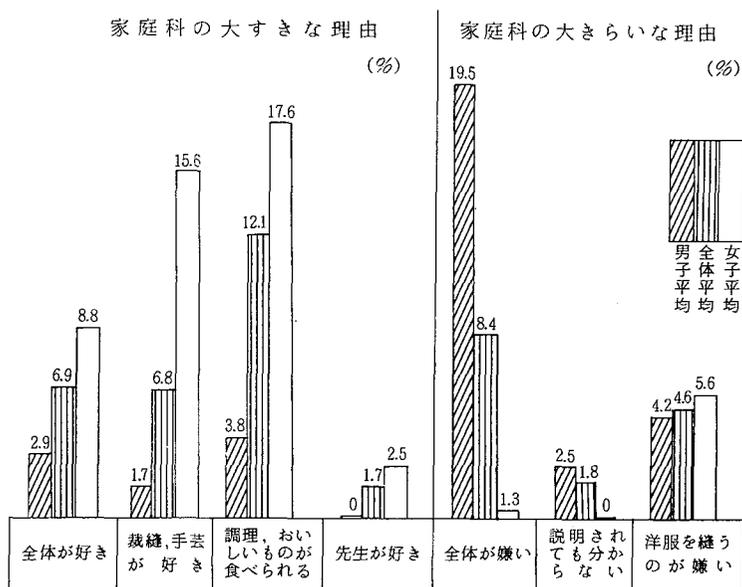


図1-2 家庭科学習に対する興味・関心の有無とその理由

表1-2 生徒の手伝いの状況

	洗たく、アイロンかけ	食事のしたく	掃除、整頓	買物	老人、幼児の世帯	家族の相談相手
よくする	28.1	19.9	10.7	29.6	65.8	55.3
ときどきする	54.4	57.3	58.6	48.9	20.9	30.0
しない	16.2	21.8	29.4	20.2	6.5	12.5
答なし	1.3	1.0	1.3	1.3	6.8	2.2

4) 男女生徒の手伝う仕事の比較について

①洗たく・アイロンかけでは倉敷男子は「よくする」が73.4%、倉敷女子は13.8%で男子より女子の方が少なくなっている。「よくする」「ときどきする」を合わせると、男子95.8%、女子81.6%で、男子の方がこれらの家庭内での手伝いをよくしており、またこれらの仕事が男子でも手伝えるように、家事労働のやり方が変わってきていることがうかがえる。

②食事のしたくでは、倉敷男子で「よくする」が48.2%、「ときどきする」が39.5%、この2つを合わせると87.7%になる。倉敷女子では「よくする」が9.6%で少ないが、「ときどきする」の65.3%を合わせると74.9%になり、男女間の手

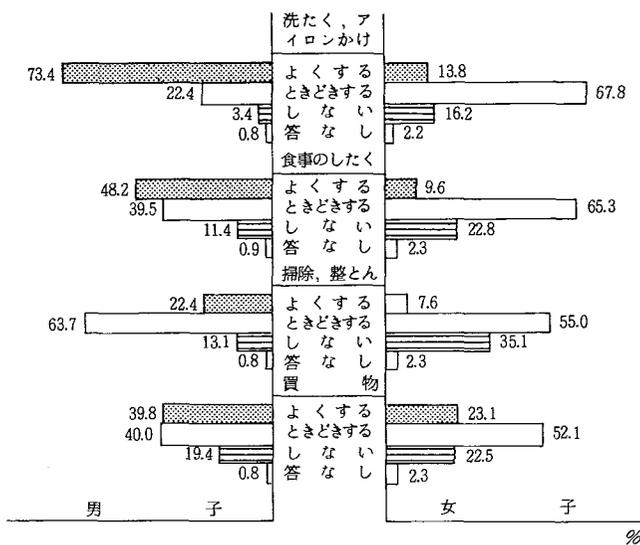


図1-3 男女生徒の手伝う仕事の比較

伝における差は認められない。

③掃除・整頓では、倉敷男子で「よくする」が22.4%「ときどきする」が63.7%、この2つを合わせると86.1%になる。倉敷女子では「よくする」7.6%で、男子より少なく「ときどきする」の55.0%を合わせると62.6%である。また女子の場合「掃除・整頓しない」が35.1%になり、これを男子(13.1%)と比較して見ると、女子では掃除・整頓を好まないものがかかなりあることがわかる。

④買物では、「よくする」「ときどきする」を合わせると、倉敷男子79.8%、倉敷女子75.2%で男女とも買物は同じように手伝っている。

### 5) 生徒の家族員と仕事に対する認識

家族の仕事や、家族員の中で「誰がすればよいと思うか」についてみると、表1-3に示す通りである。

①「子どものしつけ」では、父母が58.3%で両親がしつけをすべきだとしているが、父親(3.1%)より母親(19.9%)の方に当然、しつけの責任があるとするものが多いことがうかがえる。

②「近所とのつき合い」では、母親の仕事と思っているものが18.5%あるが、多くの生徒(54.7%)は家族全員の仕事として認めている。

③「親類とのつき合い」では、家族全員でおつき合いをするが68.1%で、つぎに父母がするが13.4%になっている。

④「生活費を家庭に入れる」では、父が44.9%で、つぎに父母が35.9%になっており、とくに母親の自営ならびに外勤の家庭が多いことから、母親の収入稼得を父親と同様に認めている。

⑤「学校の集まり」などの出席では、母親が60.3%、父母が13.2%であるが、保護者の参観日や、学芸会などは、母親が出席することが当然と思っている。

表1-3 家族員と仕事に対する生徒の認識

	つぎの仕事や誰がすればよいと思うか。 %				
	子どものしつけ	近所とのつき合い	親類とのつき合い	生活費を家庭に入れる	学校の集まりなどの出席
父	3.1	0.8	1.6	44.9	1.5
母	19.9	18.5	1.6	3.5	60.3
父・母	58.3	10.4	13.4	35.9	13.2
祖父母	0.3	2.4	3.2	1.5	0.4
家族全員	7.8	54.7	68.1	2.6	3.3
その他	0.4	0.4	0.5	0.1	3.5
わからない	1.5	2.9	2.6	1.8	6.8
答なし	8.7	8.7	9.0	9.7	11.0

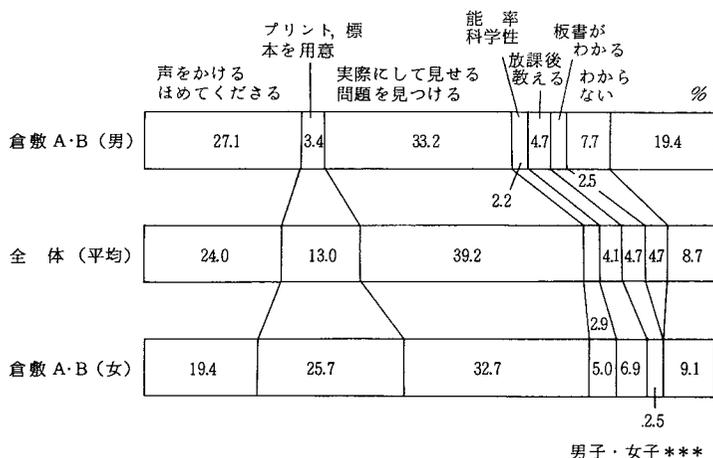
## 2 実習における学習効果

### 1) 被服実習

#### ① 被服実習における生徒の要求

中学校家庭科学習では、生徒がどのような授業を望んでいるかについてみると、「実際にして見せる、問題を見つける」が全体平均39.2%で一番多くなっている。「声をかける、ほめられる」が、全体平均24.0%である。「プリント、標本を用意してあたえられる」が全体平均で13.0%となっており、とくに倉敷のA、B校における女子では25.7%のものが「プリントや標本を用意される」ことを望み、その数は

全体平均をかなり上回っている。  
 教育実習において、実習生は被服実習を行う場合、実際にわからないところをして見せたり、悪いところを見つけたり、生徒に声をかけてほめたりし、授業の前にはプリントや標本を用意して、実技指導に当たり、生徒たちの学習意欲を高めるよう配慮する必要があることを認めなければならない。



(図 II - 1)

図 II - 1 被服実習時における生徒の要求

② 被服素材と生徒の着用状態

生徒の6月下旬に着用している下着は、綿・麻が最も多く全体平均で48.0%、特に倉敷の男子は73.7%のものが自巳の下着を「綿・麻」として

表 II - 1 被服素材と生徒の上半身下着着用状態 (60. 6 下旬)

対象校	素材	綿	レーヨン	アクリル	ポリエステル	ナイロン	毛	混紡	キュプラ	答えなし
倉敷 A・B (男)		73.7	0	0	6.0	2.1	1.3	0	0	16.9
全体 (平均)		48.0	2.1	2.0	5.2	3.3	4.2	3.2	0.5	31.5
倉敷 A・B (女)		47.4	0.7	0	1.6	2.3	12.0	1.6	0	34.4

全体平均で31.5%と多くなっていることから、自分の着用している素材が分からないものがかなりいることがうかがえる。(表 II - 1)

③ 生徒の下着を選ぶ理由

6月下旬の生徒の下着着用状態を見ると、綿・麻が多くなっている。それは「肌ざわりがよい」から選んだとするものが57.0%で一番多く、次に「乾きが早い」が8.3%、「汗・よごれが吸収されやすい」が8.1%になっている。

表 II - 2 上半身下着を選んだ理由

対象校	理由	肌ざわりがよい	乾きが早い	しりわににくい	汗吸収されやすい	洗たくに弱い	わからない	答えなし
倉敷 A・B (男)		57.0	10.3	2.1	9.4	2.1	11.9	7.2
全体 (平均)		57.0	8.3	7.2	8.1	1.3	11.5	6.6
倉敷 A・B (女)		54.4	6.4	8.1	10.7	0	8.8	11.6

(表 II - 2)

④ 被服購入時の生徒の基準

生徒が着用しているブラウス、カッターシャツを購入する時、どのようなことに気をつけているのかについてみると、表 II - 3 のようになっている。「サイズが合う」とするものが全体平均で30.9%であるが、倉敷男子 (43.4%) の方がサイズの合うものを購入している。ついで多くなっているのは「色彩やデザインが好き」とするもので、全体平均で26.5%になっている。男子の選び方についてみると、「サ

イズが合う」のつぎが、「洗たくしやすい」

(19.3%)であるが、女子では「サイズが合う」のつぎが「色彩やデザイン」をあげている。品質や値段については、男子

表Ⅱ-3 生徒の被服購入時のよりどころ

ブラウス・カッターシャツ

%

対象校	項目	洗しやすいくい	品質表示	サイズが合う	ボタン・スナップがよくなる	値段がよい	色がデザイン	縫いやすい	わからない	答えなし
倉敷A・B (男)		19.3	6.0	43.4	1.3	6.3	11.8	0	7.2	4.7
全体 (平均)		13.8	4.3	30.9	1.7	6.7	26.5	0.9	3.0	2.9
倉敷A・B (女)		16.9	5.1	36.2	3.1	4.8	25.5	1.5	2.0	4.8

の方が女子よりいくらか多く、縫製については、女子の方が多いという傾向がみられる。

⑤ 被服実習における実技の習得状況

中学校の被服実習における生徒の実技の習得状況は、教育実習で一番必要とされる課題である。従って技術・家庭科の被服教材内容<sup>(1, 2, 3)</sup>としてあげられている主なものについて、その実技習得状況をみると表Ⅱ-4に示す通りである。なみ縫い、ミシン縫い、ボタン・スナップつけは小学校で学習しているもので、70.0%以上のものがひとりできるとしている。またエプロンはひとりできるとするものが、全体平均で48.4%となっており、女子では55.7%がひとりできるとしているのに対して、男子は16.8%にすぎず、学習後にひとりできると思っていないものが多い。「スカート」では、女子46.3%はひとりできるとしている。その他でひとりで作れるとするものは「ししゅうしたテーブルクロス」

表Ⅱ-4 被服実習における実技の習得の状況

%

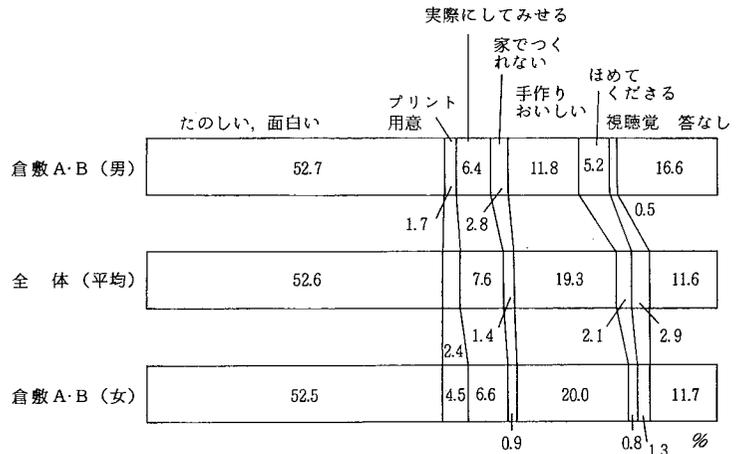
		ひとりでできる	できるようにになりたい	できなくてよい	答えなし
なみ縫い	倉敷(男)	63.6	4.2	11.9	20.3
	全体	78.2	2.6	3.6	15.0
	倉敷(女)	76.6	2.3	2.0	19.1
ミシン縫い	倉敷(男)	52.7	12.7	15.3	19.4
	全体	75.9	5.5	4.6	14.0
	倉敷(女)	81.4	2.3	2.0	14.4
ボタン・スナップつけ	倉敷(男)	43.9	21.5	13.6	21.1
	全体	71.9	8.3	4.4	15.4
	倉敷(女)	76.9	4.4	3.3	17.1
エプロン	倉敷(男)	16.8	11.7	47.9	23.6
	全体	48.4	17.1	17.1	17.4
	倉敷(女)	55.7	20.1	5.1	19.2
スカート	倉敷(男)	4.1	8.4	67.6	20.3
	全体	36.8	25.1	22.5	15.6
	倉敷(女)	46.3	32.0	3.6	18.2
ししゅうしたテーブルクロス	倉敷(男)	9.3	15.1	55.4	20.1
	全体	28.9	31.5	23.7	15.9
	倉敷(女)	36.4	32.6	11.2	19.9
休養着	倉敷(男)	3.9	16.4	57.5	22.3
	全体	23.3	34.1	24.8	17.8
	倉敷(女)	18.6	49.9	11.3	20.3
ブラウス	倉敷(男)	3.8	9.2	65.9	21.2
	全体	14.9	44.1	25.9	15.1
	倉敷(女)	14.1	59.2	9.2	17.7

で、女子36.4%、男子9.3%、「ブラウス」では、女子14.1%、男子3.8%となっている。これらの教材は、2、3学期の学習に組まれるのが一般的であるため、調査時期には未学習の学校もあって習得状況は悪い傾向を示している。従ってこれらの教材の習得の現実の状況は明確に把握されていない。(表Ⅱ-4)

2) 調理実習

① 調理実習時における生徒の要求

中学校の調理実習では、どのような授業を生徒が望んでいるかについてみると図Ⅱ-2の通りである。これによると「たのしい、面白い授業」をあげるものが最も多く全体平均52.6%、ついで「手作り、おいしいものが食べられる」が全体平均19.3%である。男子は11.8%、女子は20.0%で男子に比較して女子は自分でおいしいものをつくるのを希望している。調理実習を「楽しい、面白い」授業で



図Ⅱ-2 調理実習時における生徒の要求

あることを望む生徒が50.0%以上いることから、教生の行う授業を楽しいものにし、生徒の学習意欲を高めるように、大学における教授方法をも含めて考慮する必要のあることがわかる。

② 調理実習における実技の習得状態

技術・家庭科の食物教材内容(1, 2, 3)としてあげられているものについて、その実技習得状況をみると、表Ⅱ-5に示す通りである。「たまご焼き」は全体平均80.8%で一番よくできる調理である。つぎに「カレーライス」が全体平均68.9%、「みそ汁」が全体平均61.7%、「ポテトサラダ」が全体平均57.3%の順で、ひとりのできるとしている。このことは家庭での調理の手伝いの有無にも関連しているとみられる。男子は「カレーライス」46.6%、「みそ汁」38.9%「ポテトサラダ」25.5%などはひとりできると

表Ⅱ-5 調理実習における実技の習得の要求

		ひとりのできる	できるように なりたい	できなくて よい	答なし
たまご焼	倉敷(男)	71.2	6.8	7.6	14.4
	全体	80.8	4.4	2.0	12.8
	倉敷(女)	76.1	5.1	0	18.8
カレーライス	倉敷(男)	46.6	23.1	10.5	19.8
	全体	68.9	13.9	3.0	14.2
	倉敷(女)	70.4	10.4	0.8	18.4
みそ汁	倉敷(男)	38.9	24.1	17.6	19.4
	全体	61.7	16.2	5.6	16.3
	倉敷(女)	64.9	11.5	2.0	21.6
ポテトサラダ	倉敷(男)	25.5	26.9	24.8	22.8
	全体	57.3	18.4	7.1	17.2
	倉敷(女)	57.5	18.0	1.3	23.2
焼き魚	倉敷(男)	41.0	17.2	21.6	20.2
	全体	49.5	25.1	8.9	16.5
	倉敷(女)	46.0	27.1	5.0	21.9
ハンバーグステーキ	倉敷(男)	20.0	32.8	26.6	20.6
	全体	41.0	33.9	10.1	15.0
	倉敷(女)	34.5	41.0	5.1	19.4

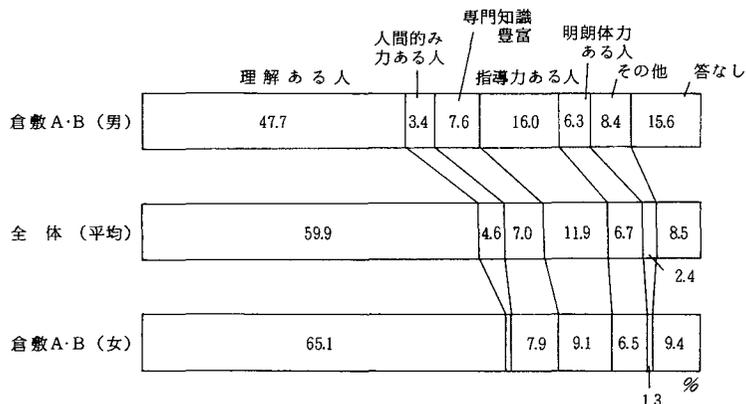
している。率は低い、ひとり  
 できるようになりたいとする  
 のものが、20.0%以上あること  
 は、生徒達のこの学習に対する  
 意欲の現れとみてよいであら  
 う。「焼き魚」「天ぷら」「ハン

天ぷら	倉敷(男)	17.4	28.3	33.7	20.6
	全 体	39.5	32.2	12.4	15.9
	倉敷(女)	37.9	36.4	5.1	20.6
ちらしずし	倉敷(男)	5.5	26.1	48.5	19.9
	全 体	18.4	46.9	20.2	14.5
	倉敷(女)	16.6	54.1	11.2	18.1

バーグ・ステーキ」は、全体平均で40.0%~50.0%のものがひとりできるとしてあり、ひとりでき  
 るようになりたいも30.0%以上ある。この場合、ひとりできるとい自己評価ではインスタント食品  
 や、レトルト食品の活用がその背景にあることもうかがえるので教材選定に一考が必要であらうと思わ  
 れる。「ちらしずし」は、ひとりできると18.4%で、80.0%以上のものが「出来ない」としているが、  
 46.9%のものが「ひとりできるといふようになりたい」とし、特に女子では54.1%のものが学習したいと希  
 望している。調理は家庭生活、とくに食生活の充実という点から不可欠な作業ともみられるので義務教  
 育の段階で基礎学習を基にして広がりをもてるように仕向けることも必要であらう。

### 3 家庭科学習と生徒の望む教師像

中学校の家庭科学習において  
 生徒は、どのような教師を望ん  
 でいるかについて示すと図Ⅲ-  
 1の通りである。「理解ある人」  
 とするのは、全体平均59.9%  
 あるが、倉敷男子47.7%、倉敷  
 女子では65.1%で、女子の方が  
 いくらか多くなっている。つい  
 で「指導力のある人」、「専門知  
 識のある人」になっている。こ



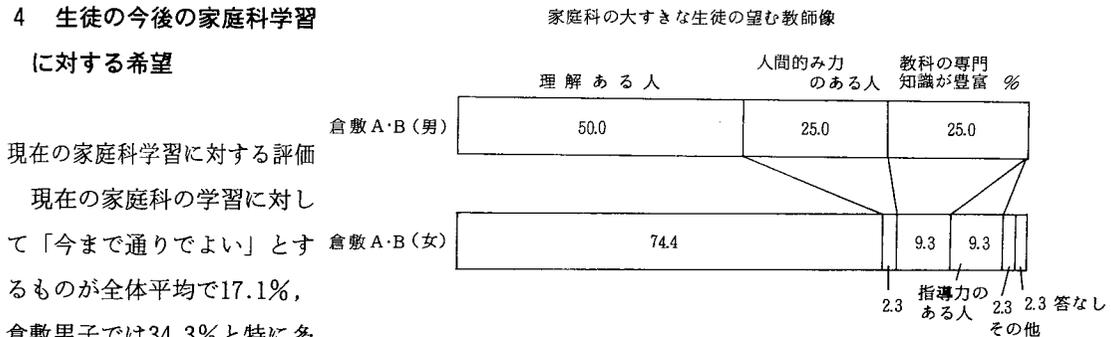
図Ⅲ-1 生徒の望む家庭科の教師像

これらのことから教授に当っては学習者の生活状況を出来得る範囲でよく知る(4)ことは学習効果を高め  
 ることにつながる。従って生徒が自らのテンポで成長、発達していくことを十分に認識して対処しなけ  
 ればならないであらう。

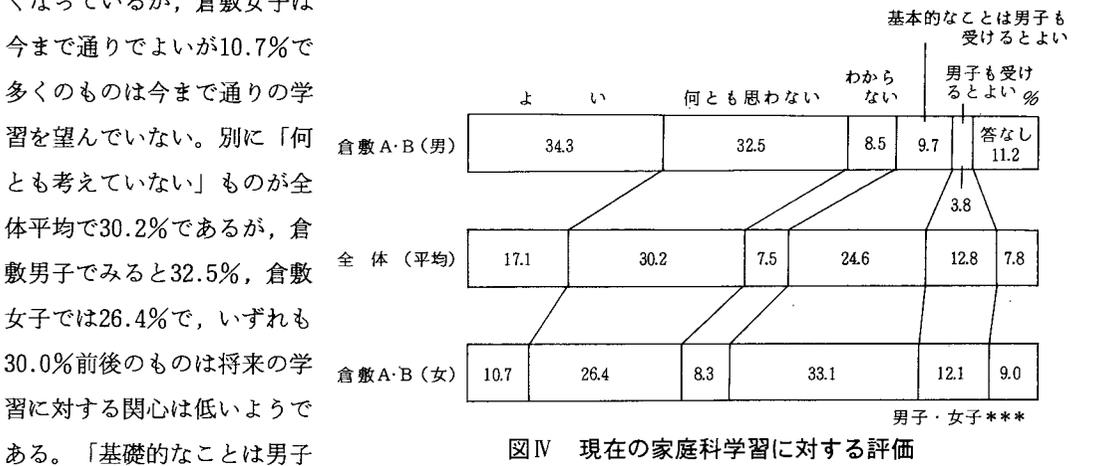
次に家庭科の大好きな生徒の望む教師像について示すと図Ⅲ-2の通りである。

倉敷A、B校の男女を比較すると、女子は「理解ある人」を望むものが74.4%、つぎに「指導力のある  
 人」9.3%、「教科の専門知識が豊富な人」9.3%である。男子は、「理解ある人」50.0%、「人間的魅  
 力のある人」25.0%、「教科の専門的知識が豊富な人」25.0%になり、女子よりも教科の専門知識や人間的魅  
 力を望むものが多い。

4 生徒の今後の家庭科学習  
に対する希望



図Ⅲ-2 生徒の好む教師像



図Ⅳ 現在の家庭科学習に対する評価

5 男女共修における学習内容

男女共修時における生徒の望む学習内容についてみると、調理実習が全体平均40.0%で最も多い。特に男子で調理実習を望むものが55.7%である。次に家庭経

表Ⅴ 男女共修時における生徒の望む学習内容

対象校	学習内容									答なし
	調理	保育	家庭関係	家庭経済	住居	被服製作	手芸	衣生活の方	あり	
倉敷 A・B (男)	55.7	9.2	4.6	8.0	13.0	0.9	0	0	12.3	
全体 (平均)	40.0	9.2	12.8	13.0	12.0	1.7	0.6	1.4	9.3	
倉敷 A・B (女)	36.1	6.5	14.9	12.4	11.9	2.0	0	2.8	13.4	

営が全体平均で13.0%、家族関係12.8%、住居12.0%、保育9.2%の順になっている。被服関係の授業や、手芸の授業は男女共に希望が少ない傾向にある。従って、教師は、生徒がその発達状態に応じて効

果的な学習をする条件<sup>(5)</sup>について理解し、生活を営む上での衣、食、住に関わる最低必要とされる理論と実技の習得をふまえた家庭科の内容について検討してもよいであろう。

- 注\* 5%有意水準で有意差あり  
\*\* 1%有意水準で有意差あり  
\*\*\* 0.1%有意水準で有意差あり

## ま と め

以上、目的に示したように、現場の家庭科教師は普通には、中学生の生活の実態について、ある程度  
の理解を持って授業に臨まれていると思うが、教育実習に参加する本大学の学生の場合、中学生の生活  
の実態や、生徒の家庭科の学習に対する興味・関心については、殆んど知らない状態にある。従って生  
徒の生活実態や、家庭生活のあり方、家庭生活の営みの仕事などに対する認識や生活行動、生活資材  
などに関わる知識や、実技の程度を知ることが、学生の教育実習時における家庭科の指導効果を高める  
ことになるであろう。そしてこのことはまた学習者のこの教科における学習効果を高める一端になるこ  
ともあると思われる。学習者が学習意欲をわかせる先生として最も多くあげられているものは、「分  
かりやすく教えてくれる先生」であったり、「おもしろい先生」「楽しい先生」など<sup>(6)</sup>のように、「分か  
る授業」だけが望まれていないことが、この調査でも明らかである。この点から、家庭科の授業を通し  
て、教師と生徒の人間の触れ合いと同時に、教師の多角的思考の広がり的重要性が強調されてくる。

中学校における男女共修に関しての問題点やカリキュラムについては次の機会に報告する

稿を終えるにあたり、アンケートに御協力いただいた倉敷市内4校の中学校と、岡山市内2校の中学  
校の諸先生と生徒に深く感謝いたします。

最後に、この調査、研究を行うにあたり御指導をいただきました岡山大学教育学部深田貞子教授に深  
く感謝いたします。

〈付 記〉 この研究は、昭和60年度中国短期大学研究費助成を受けたものであり、第32回（昭和  
60年10月13日）日本家政学会、中国・四国支部研究発表会において口頭発表したものである。

## 参 考 文 献

- 1 全国職業教育協会 『技術・家庭 女子向Ⅰ』昭和53年
- 2 全国職業教育協会 『技術・家庭 女子向Ⅱ』昭和53年
- 3 全国職業教育協会 『技術・家庭 女子向Ⅲ』昭和53年
- 4 O. A. ホール, B. パオラッチ 『家庭科教授法』 宮原佑弘訳 原田一監修 昭和43年 P.103
- 5 同 上 P.195
- 6 岡山県教育センター 『教授における生徒との人間関係促進に関する研究』山陽新聞 昭和60年9月記掲